

トピックス

歯科健診の取り組み

今号が発刊されるころは、新年度を迎えているはずですが、当大学附属病院でも郡山市内の小学校、幼稚園、保育園および市外の養護学校などから歯科健診の依頼を受ける時期になります。ムシ歯予防デーの6月を中心に5月から7月にかけて出向します。私は入局以来、この歯科健診の業務に携わり、これらの健診結果の経年的資料をもとに永久歯の萌出や、齲蝕罹患状態等の研究を行ってきました。また、「学童の身体発育からみた永久歯萌出と齲蝕罹患に関する歯科保健学的解析」の研究論文をまとめました。このように、歯科健診は私にとって研究の場であり、臨床における前段階のスクリーニングの場でもあるわけです。この学校歯科健診は平成7年度より定期健康診断の内容が大幅に改正され、CO.GOが新たに取り入れられました。これまでの学校歯科健康診断は疾病中心でしたが、これからは健康を中心に考え、口腔の機能を診査して、児童生徒の積極的な健康作りに役立てようとするものです。学校歯科保健でCO（要観察歯）が取り入れられたのは、学校において適切な指導観察などの管理を行うことにより、初期の齲蝕病変を疑わせる歯の実質欠損が伴う、齲蝕病変へ進行するのを予防することを目標としています。CO（要観察歯）とはエナメル質に軟化した実質欠損は認められないが、1. 小窩裂溝において、褐色状の着色が認められ、粘性（sticky感）が触知されるもの。2. 平滑面において、粗造面や白濁・褐色斑が認められるもの。3. 隣接面等において、エナメル質の軟化・実質欠損の確認が明らかでないもの。などが該当します。テレビなどで報じられている、いわゆる「初期ムシ歯」のことです。特に第一大臼歯は萌出間もない時期から、齲蝕発生率が増加すると報告されています。私たちの研究でも同様の結果が得られており、低学年からの歯科的対応が必要になります。また、GO（歯周疾患要観察者）は、歯の磨き方

奥羽大学歯学部成長発育歯学講座 相澤徳久

や食習慣を含む生活習慣等が適切でない為に起こる歯肉炎を早期に発見し、学校での保健指導によって歯周疾患を予防するために設けられています。GO（歯周疾患要観察者）とは1. 歯肉に軽度の炎症症候が認められるが、健康な歯肉の部分も認められる。2. 歯垢の付着は認められるが歯石の沈着は認められない。3. 歯の清掃指導を行い、注意深い歯磨きを続けて行うことによって炎症症候が消退するような歯肉の保有者などであり、不潔性、萌出性および叢生によるものなどがあります。これまでの歯科健診結果から学年が上がるにつれて歯肉炎が増加する傾向にあります。このように、全学年において歯科的対応が必要であり、平成18年度からは、小学校側からの要請もあって、歯科健診とは別に歯科保健活動の一環として歯科保健指導も行い、各学年全クラスにおいて①講話、②歯垢染出しとブラッシング指導といった内容で実施してきました。

一方、幼稚園、保育園では0歳から就学前の子ども達を対象に歯科健診を行っています。これまでの健診結果から、齲蝕は減少傾向にはあるものの、多数歯齲蝕の子どもがまだいます。また、園では先生を通して保護者からの質問を受けることがあります。ムシ歯や歯磨きの他に「指しゃぶり」や「母乳・哺乳ビンの使用」などの質問をよく受けます。特に保育園では歯科健診に行くと、指しゃぶりによる開咬の子どもをよく見かけます。家庭も含めて、子どもの精神的な問題などが原因として考えられますが、最大の原因は子どもを取り巻く環境ではないでしょうか。このように幼稚園、保育園では小学校とは違った問題があり、今後は園の先生や保護者に対する歯科保健的対応が望まれると思います。

文 献

- 1) 日本学校歯科医会：学校歯科医の活動指針 1996.